

「日本における男女の賃金格差の現状と解決に向けて」

吉田 一貴

【要旨】

本稿では、男性と女性で得られる賃金約20%の差があることを研究の背景の背景として挙げ、男女の賃金格差について議論している先行研究から「女性の非正規雇用」「日本的雇用慣行」「女性の管理職」「性的役割分業」を問題点として挙げ、それぞれの現状を確認した。海外の取り組みを取り上げて、2つの視点から提案を行った。企業や各家庭の視点からは、①評価制度の見直し②女性の就業継続支援③男性の家事育児参加④女性の管理職活用に向けた取り組みを提案した。また、海外では法律による規制やその実効性を持たせるための行政監督などの取り組みがあったことを取り上げ、改正された女性活躍推進の罰則規定や行政監督を取り入れることを提案した。

今後の課題として、本稿では各問題点の現状をもとにした提案のみを行なったため、実証研究によりその有効性を検証することができなかったこと、企業規模や職種、学歴などその他にも考えられる要因についてまで触れることができなかったことなどを挙げる。

【講評】

本論文において、多数のデータを活用して、日本社会が抱える男女間の賃金格差の問題点を分析し、年齢や勤続年数、長期雇用を前提とした評価制度の見直し、女性に向けた就業支援活動、男女の家事育児参加、女性管理職活用に向けた取り組みが解決策として提示された。読みやすい文章で執筆されていて、説得力のある議論が展開されていることを評価することができる。一方で本論文には課題もある。本論文で扱われている事項は、すでに他の論者が提案している事項であり、筆者独自の独創的な提案が望まれると考える。さらに本論文においてアイスランド、フランス、アメリカの事例が提示されるが、それらの国と日本で制度や文化を含めたシステム上の違いがあるために、他国の事例を日本に導入する議論については、もう少し慎重に行うべきであると考えられる。